

○事業所名	多機能型事業所 重症児デイサービス実さき		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 16日		～ 令和7年 1月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 25日		～ 令和7年 1月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 1月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	看護師、保育士、理学療法士を常勤で配置し、専門知識をもった支援ができる。また、外部より音楽療法士（2回/月）、アロマセラピスト（1回/週）を招き豊かな活動内容を実施している。	医療ケアのある子どもには、常に担当看護師が付き、状況に合わせた必要なケアを実施している。必要に応じて専門知識のある職員の意見を聞きすぐに対応ができるようにしている。子どもたちが安楽に過ごせる対応を可能にし、楽しく成長を促すことができるよう日々の支援に取り組んでいる。	ひきつづき職員の配置数を維持し、職員の知識と技術の向上を目指していきます。
2	ミスト浴を導入し、医療的ケアが必要な子どもでも安全安楽に入浴支援を提供することができる。	各児童の処置内容や入浴時の注意点等が記載されている入浴一覧表を作成し、見える化をすることで全ての職員が共通認識を持ち、安全に留意した入浴支援や各児童に必要な入浴後の処置を提供できるように体制を整えている。	ミスト浴を導入にして1年が経過したが、トラブルや苦情等なく、入浴後の子どもたちははすっきりした表情でのびのび過ごす姿が見られ、とても嬉しく感じています。今後も保護者様とお子様の希望に添える支援が行えるように努めていきます。
3	ご家族のご要望にできる限り応えるよう努め、保護者様が不安や困りごとを相談しやすい環境を心掛けている。	子どもの体調面はもちろん、悩みや相談がある時は電話や公式ラインで気軽に連絡が取れるようにしている。支援中の児童に体調の変化等がある時は、すぐに電話とラインを使って報告、相談を行い状況共有している。送迎時や連絡帳を用いて事業所でのお子様の様子をお伝えし、安心して利用していただけるようにしている。	ご家族様の不安や負担が和らぐよう、気持ちを聞き取り寄り添った支援ができるように努めていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流、地域の中で事業所以外の子どもの活動の機会が持てない。	感染症の心配から交流は控えたいと考えている。	保育所やこども園等、複数の子どもたちとの交流は考えていませんが、散歩やハロウィンイベントでは地域住民と関わる機会をもち、事業所への理解や連携がもてる関係を築いています。
2	利用者人数やニーズによって支援スペースが狭いと感じる。	その日利用する子どもの行動範囲やベビーカー、バギーの大きさと数によって活動スペースが狭くなり、子どもたちの行動に制限が出てしまう。	その日使わないものは移動させ、子どもたちが過ごすスペースに余裕がもてるように工夫していきます。散歩や公園へ出かけ屋外活動も取り入れ、気分転換ができるようにします。
3	保護者を対象とした保護者会や研修の開催がない	事業所を開所し、今のところ年に2回の家族参加イベントを開催し保護者同士の交流、きょうだいの参加も積極的に受け入れ交流の場を設けるところまでの状況。	1周年という節目に、保護者同士で交流ができる時間を設けました。保護者様のご意見も伺いながら、保護者会等の開催を増やしていきたいと考えています。